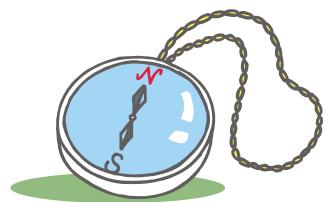


羅針盤



第 5 号 令和2年(2020年)6月1日(月)

◆ 『志(こころざし)』を立てよう!

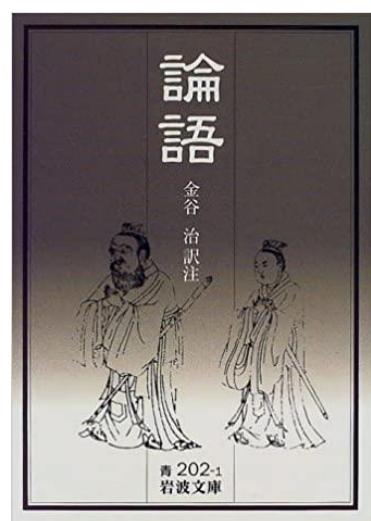
先週より、3年生の登校日には、分散登校による授業が実施され、本日からは、1・2年生も加えて、全ての学年で、午前と午後に分かれての分散登校による授業が始まりました。また、パンと牛乳による簡易給食もスタートし、着実に本格的な学校生活再開への準備が進みつつあります。2週間後の通常登校による学校再開の日に向けて、生活リズムを整えながら、体力を蓄え、家庭での学習習慣を身に着け、時間を有意義に活用して、日々の生活を過ごしてほしいと思います。

年度初めのスタートを円滑に進めていくためにも、生徒の皆さんには、これから的一年間で何をするのかといった「志(こころざし)」を立ててもらいたいと考えています。今から2500年も前に中国で書かれた古典である「論語(ろんご)」を皆さんには知っているでしょうか。孔子(こうし)がその弟子たちからの質問に答えた内容をまとめた書物で、時代を超えて読み継がれてきたものです。その中でも、特に孔子(こうし)が一番大事にしたのが「志(こころざし)」です。「吾(わ)れ十有五(じゅうゆうご)にして学(がく)に志(こころざ)す」(私は十五歳のときに、目標を定めて勉強しようと決めた)という有名な一文があります。「よし!○○のような偉い人になるぞ!」「何があっても、○○をやり遂げてみせるぞ!」と思うのが、「志(こころざし)」です。しかも、自分のためだけではなく、社会のため、人のために自分はこういう人間になって貢献していきたいという決意こそが、「志(こころざし)」です。

また、孔子(こうし)は、昨日の自分よりも今日の自分、今日の自分よりも明日の自分がよくなるように「生きたい」と考えていました。そして、「社会や人のために、役に立つ人になりたい」と考えたのです。そのためには、「徳(とく)」を積むことが大事であると孔子(こうし)は考えました。

孔子(こうし)が考えた「徳(とく)」、それは、誠意があるということであり、人に信頼されることであり、そして、良い行いをしようという気持ちがあるということです。まずは、しっかりと「志(こころざし)」を立て、「徳(とく)」を積んで、まっすぐに成長することが大切であるということを説(と)いた書物、それが「論語(ろんご)」です。

自分自身が成長していくイメージをしっかりと持って、「生きる力」と「考える力」を身に着けてもらいたいと思います。そして何よりも「大丈夫、自分ならできる!」という気持ちを持ち続けて、自分自身が立てた「目標」に向けて、弛(たゆ)まぬ努力を続けることの大切さを感じてほしいと願っています。



保護者の皆さん、先週より3年生の授業が、本日より1・2年生でも授業が開始することができるようになりました。まだまだ新型コロナウィルス感染症が完全に終息したわけではありませんが、子どもたちの学習活動が少しずつ、そして、学校で行われるべき教育活動が着実に通常の形態へと進んでいくように思います。学校として取るべき万全の対策を講じながら、子どもたちにとってより良い教育活動を進めて参りますので、引き続き、本校教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。 (校長 坂井 伸治)

